



橋本圭司，青木瑛佳，目澤秀俊，中山祥嗣 監修

日本語版 ASQ-3【質問紙ダウンロード権付】

乳幼児発達検査スクリーニング質問紙

小枝達也

本書の主な特長について3点述べたいと思う。

1番の特長は，親などの養育者が記入して，発達の遅れを把握することができる点であろう。本邦においてはこれまでに優れた独自の発達検査法が開発され，現在でも広く使用され続けている。これらは検査法を学んだ検査者が実施するものであり，一般の養育者が記入することはできない。このたびASQ-3の登場によって，養育者が記入して，簡便に子どもの発達の状況を把握できるようになった。これは画期的なことである。

養育者は必ずしも子どもの成長や発達が分かっているわけではない。これが養育者による自記式のスクリーニング質問紙の登場を阻んできた。本スクリーニング質問紙では，養育者が記入できるように，分かりやすく具体的な指示が記載されている。これが一番の特長であると思う。例を示すと30か月用質問紙のコミュニケーション領域の5番目に「指差したり，ジェスチャーでヒントを与えずに、『本をテーブルの上において』と『靴をいすの下において』と指示してください。お子さんは，両方の指示を正確に行いますか」という質問がある。子どもの発達をよく知らない養育者でも間違えようがないほど，とても具体的で分かりやすい記述となっている。

2つ目は，各月年齢のそれぞれの領域には6つの質問があり，それらが容易なものから難易度の高いものへと順に並べてある点である。先ほど例示した質問は36か月用になるとコミュニケーション領域

の3番目に配置してある。つまり各月年齢でいくつかの質問が重なりながら登場している。子どもの発達には，幅あるいはブレがあるものである。そのため「里程標」といわれる発達の目安となる事象(例えば2歳で2語文を話す)を標準的な月年齢に配置して，それを通過するかどうかで判定すると，未通過の場合に養育者はがっかりするし，たった1項目だけで遅れているという誤った判断をしかねない。本スクリーニング質問紙では，6つの質問を設定することで，発達のブレの影響を吸収する構造となっている。

3つ目は，本書のオリジナルは米国のオレゴン大学で開発されたものであるが，当初は子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)のために翻訳されて用いられたことから，日本の幼児で標準化された質問紙であること，および今後もエコチル調査での結果が解析されたときには，およそ10万人の幼児のデータを用いて原版よりもさらに精度の高い質問紙へとバージョンアップされる点である。エコチル調査の継続とともに，本スクリーニング質問紙も継続して活用されることを期待している。

(国立成育医療研究センター副院長/こころの診療部統括部長)

●A4 156頁 2021年 定価：19,800円(本体18,000円+税10%) 医学書院刊